

甲南Today

2016 Spring NO. 49

甲友のリレーションで、未来を紡ぐ

クロースアップががんばる学生を応援!!
5人で絆をリレーする
体育会陸上競技部 女子リレーチーム

It's KONAN Style
第一線で活躍する卒業生
塚越雅信氏

なるほど! 甲南アカデミア
理工学部生物学科講師
後藤 彩子

＜特集1＞ 巻頭インタビュー 進行形の改革に迫る INFINITYの序章

＜特集2＞ 二人の哲人が実践した「教育」の 足跡をたどる 甲南大学、 その哲学の系譜

甲南Today NO.49

2016年3月20日発行 [発行] 甲南学園広報部 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9番1号 TEL.078-431-4341(代) <http://www.konan-u.ac.jp>

ONLY ONE VOL.20
—個性を力へ—

「真の教育とは、人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の才能を引き出すことである」と提唱した、甲南学園創立者 平生鈞三郎。そんな平生の想いを込め、今、甲南学園の光り輝いている学生・生徒をご紹介します。

弓道で日本一を達成したい。

「高校時代にインターハイに出場したものの、全国ではまったく勝てませんでした。それが悔しくてどうしても全国優勝したいと思い、大学でも弓道部に入りました。」

弓道では、練習量がすべて。少しでも練習をさぼると、たちまち中たらずになります。週5日毎晩9時までの練習には欠かさず参加し、オフの日にも自主練へ行きました。「一方で、勉強でも毎日のようにレポート提出が求められ、気を抜くことは許されません。」

「レポートを出さないと単位が取れない。けれども練習を休むと日本一を達成できなくなる。弓で思うように結果が出なくて、逃げ出したくなることもあったけれど、文武両道を貫こうとがんばりました。」

たけれど、文武両道を貫こうと
がんばりました。」

その結果、

2014年の第38回全日本学生弓道女子王座決定戦で、甲南大学は見事17年ぶり3回目の優勝を遂げました。このとき、決勝戦で植本さんは皆中(すべての射を的中すること)の快挙も達成しています。

宇宙の謎を解き明かしたい。

植本さんにとって文武両道の「文」とは、宇宙研究のことです。興味をもったのは中学生のときでした。「宇宙がどこに存在するのか。そんな疑問が頭から離れなくなりました。わからないことがあると、何とかして解明したくなる性格です。」

世界で唯一の研究者になりたい。

就職先は「はやぶさ2」を打ち上げたJAXAに内定

高校時代には、関心はスペースデブリ

(宇宙のゴミ)へと移って
いきました。日本
の伝統武道、

弓道の修行

を積む一方で、

現代科学の最先端

を行く宇宙研究に取り

組む植本さんは、卒業研

究で「はやぶさ2」の軌道観

測に挑戦。2015年12月3

日夜、ずっと曇っていた空
が、一瞬だけ晴れる

しています。入職するのは超難関といわれる同機構で、異例ともいえる合格を勝ち取った秘訣は何だったのでしょうか。

「弓道で日本一になったことに加えて、ひたすらスペースデブリ研究をアピールする作戦が成功したようです。世界広しといえども、デブリ専門の研究者はほとんどいないはず。ユニークさが評価されたのだと思います」と語る植本さんの夢は、世界一のデブリ研究者となり、いずれはNASA(アメリカ航空宇宙局)やESA(欧州宇宙機関)とも連携し

世界のために

うえもと ありみ
植本 有海さん

甲南大学理工学部
物理学科4年次

兄にあこがれて弓道を始め、高校・大学で女子主将を務める。武道を嗜む一方で、幼い頃から宇宙へ興味をいだき、初志貫徹して宇宙関係の職場を射止める。

日本一になる! JAXAで宇宙を探る!
夢をかなえた弓道女子。

※宇宙航空研究開発機構

高校時代の夢「弓道日本一」を大学でかなえ、JAXA内定を勝ち取ったリケジョの秘密を探る。





表紙の絵

西井 義晃 画

「グローバルゾーン “Porte(ポルト)”」

西井 義晃さん

1961年甲南大学経済学部卒業

元自由美術会員

甲南Today

CONTENTS
2016 Spring

No.49

03 特集1

進行形の改革に迫る

INFINITYの序章

07

It's KONAN Style 第一線で活躍する卒業生

世界金融の最前線で活躍し、
アメリカの名門ビジネススクールから

荣誉ある賞を

贈られた先駆者。

塚越雅信氏



09 特集2

二人の哲人が実践した「教育」の足跡をたどる

甲南大学、その哲学の系譜。

11 高中TOPICS

未来へ響け

仲間と紡ぐ笑顔と音色。



13

クローズアップ がんばる学生を応援!!

体育会陸上競技部 女子リレーチーム

走るのは4人だけど、

つながりバトンには

5人分の思いが込められている。



15

なるほど! 甲南アカデミア

理工学部生物学科講師 後藤 彩子

アリがかわいくて、面白くてたまらなくて

世界一たくさんの

女王アリを飼っている研究者!?



17

平生鈆三郎日記刊行記念シリーズ

不景気打開策をめぐる平生鈆三郎と小林二三

19

甲南学園創立100周年カウントダウン連載

活動の輪を広げる同窓生たちII 甲友の「絆」を訪ねて。

甲南大学継星会 アサヒビールOB甲南会



21

KONAN
FORUM

裏表紙

個性を力へー ONLY ONE

日本一になる! JAXAで宇宙を探る! 夢をかなえた弓道女子。



国際交流

2015年9月19日には、私にとっても念願だった学内留学の空間「グローバルゾーンPorte（ポルト）」が誕生しました。外国語だけでコミュニケーションをとる「KONAN Language LOFT」、学生と留学生が交流しながら学ぶ「グローバルラーニングコモンズ」、留学生の拠点となる「あじさいの1む」の3エリアからなり、当初の予想をはるかに超える数の学生たちが自然な感じで利用しています。すでに授業との連携もスタートし、1年次のオーラルコミュニケーションの授業では、



「世界に通用する紳士淑女たれ」という建学の理念が示すように甲南大学は、これまでもグローバルに活躍する人物教育に力を注いできました。他大学にしばしば見られる国際系学部が存在しないのも、学部を問わずすべての学生にグローバル教育が必要だという独自の考えによるものです。そしてその取り組みは、「融合型グローバル教育」を掲げる長坂学長のリーダーシップのもとで、さらに進化しようとしています。

すべての学生が世界と出合える環境と機会を拡充。
「専門能力+国際力+行動力」を融合した
甲南らしいグローバル教育が姿を現す。

「KONAN Language LOFT」での英会話体験が成績評価に組み込まれるようになりました。LOFTでは留学生だけでなく、留学から帰ってきた甲南大生、英語の教員などが訪れた学生をつねにサポートしています。今後は、理系の学生を対象とした外国語教育の場としても活用する予定。またLOFTは英語の使用からスタートしましたが、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を使う曜日や時間帯を設定する計画もあります。これから甲南ならではの取り組みを通じて世界に通用する人物を育成します。

**4年間の成長を可視化する
サティフィケートという
認証制度が始動。
全学生がビジネス英語を
学ぶ機会も。**

「KONANサティフィケート」の

**海外留学の選択肢を増やし、
世界に飛び出す学生を後押し。
グローバルな活躍の土台を育む。**

留学制度のさらなる充実にも取り組

海外の留学生を受け入れる体制も拡充します。これまでは協定校からの交換留学生が中心でしたが、来年度からは各学部で正規留学生の受け入れを開始することになりました。甲南大生と海外からの留学生がともに受講できるよう英語による専門科目の講義も増やす予定です。このように国際化するキャンパスの中で多様な文化を理解する力と外国語によるコミュニケーション力を磨き、グローバルに活躍できる土台を築いてほしいと思います。

一環である「グローバル・サティフィケート」も始動しています。「ホップ（学内の交流系イベントへの参加）」「ステップ（エアスタディーズなど短期・中期の海外研修）」「ジャンプ（半年前後から1年間の海外留学）」の3つのプログラムを設け、体験ごとにポイントを付与。学生一人ひとりが幅広い国際交流活動を通じて、どのような能力を身につけたのか。成績に反映されにくい異文化理解やコミュニケーション能力、主体性やチャレンジ精神などの力を見えるカタチにし、社会に巣立つ学生を力強く後押ししていきます。また、ベルリッツやECCと連携した英語でビジネスを学ぶプロジェクトも推進。全学部の学生が受講できる「キャリア創生共通科目」を正式科目とすることが決定しました。目下、シラバスを吟味し、より充実した内容にすべくブラッシュアップしているところです。



【特集1】

INFINITYの序章

進行形の改革に迫る



長坂悦敬 経営学部教授が甲南大学長に就任した2014年8月。甲南大学は変革のステージへと力強い一歩を踏み出しました。「伝統は、革新の連続にほかならない」と語る長坂学長の行動力とリーダーシップのもと「甲南にしかできない質の高い教育」をテーマに、さまざまな領域で先進的な取り組みが行われています。今回は、その中から「国際交流」「共通教育」「地域連携」に焦点をあて学長補佐として力強く改革を推進する3人の教授にお話を伺いました。現在進行形の変革と、そのまなざしの先にある甲南大学の未来像をレポートします。

学長補佐・国際言語文化センター

いば みどり
伊庭 緑 教授

地域連携

「KONANプレミア・プロジェクト」を通じて、学生の活動を支援し、地域団体との連携も推進。

教育的な側面においては従来からの取り組みに加え、新たな動きがすでに活発化しています。「KONANプレミア・プロジェクト」の一環としてスタートした「地域連携支援プロジェクト」もその



催団体に加わり、幅が広がりました。また、岡本キャンパスに近い岡本商店街振興組合とは、昨年3月に包括協定を結び、より一層深い信頼関

近隣から始まり、連携する地域を広げ、甲南らしい地域連携をめざす。

大学の地域連携は近隣に限られることが多いのですが、甲南の考える地域連携はそれに限られるものではありません。近隣地域との関係を大切にしつつ、学生の出身地域、卒業生が活躍する地域も視野に入れることによって、連携するエリアは大きく広がります。

2016年4月、地域連携センターは12号館にリニューアルオープン。地元の人々が気軽に立ち寄り、学生たちとコミュニケーションしながら悩みを相談し解決する活気あふれる場所へ。地域連携のハブ機能を担うべくセンター内には、ボランティアなど地域からの情報を発信するとともに、談話室、会議室など多様な機能を集約しました。学生たちには、この場所を核に幅広い取り組みを通じて社会参加の意識を高め、地域のリーダーとして活躍できる人格と能力を身につけてほしいと考えています。

2016年4月、地域連携センターがリニューアル。大学と地域とをつなげる拠点として、地域連携の新しい関係づくりを加速。

次代を担う社会人を育成し、地域の発展に貢献する大学へ。ブランド力の向上も視野に。

甲南大学地域連携センターは、2011年の開設以来、主にボランティア活動の推進や教育プログラムの開発に取り組んできました。その実績を主台に、ボランティアにとどまらない幅広い地域連携へと活動の幅を広げていきます。

今後、甲南大学が展開していく地域連携には、二つの軸があります。

一つは、地域と連携した活動を通じて学生の人間性を育むという教育的な使命。これは甲南大学が「人物教育のクオリティ・リーダー」をめざすための実践の一つです。

もう一つは、大学が知的プラットフォームの役割を果たすことによって地域の産業やコミュニティの発展に貢献すること。これは甲南大学が「地域と連携して発展していることが社会に評価される大学」となるためには欠かせません。この二つの軸をしっかりともち、バランスのとれた地域連携を実現したいと考えています。それは甲南の価値やブランド力を高めることにもつながります。

学長補佐・地域連携センター副所長
文学部歴史文化学科

さとう やすひろ
佐藤 泰弘 教授



一つ。すでに2015年、企画募集に応えた学生グループの中からダウン症の子どもたちをサポートする活動など2グループを採択し支援しました。

地方自治体や地域団体との連携も推し進めています。本学と包括協定を結ぶ東灘区社会福祉協議会は、本学を会場に「ひがしなだチャイルドフェスティバル」を実施しています。そこにボランティアとして参加する学生のため、イベントに先駆け「子どもサポーター実践講座」を開講し、学生たちがボランティア活動について体系的かつ実践的に学ぶ機会も設けました。昨年から甲南女子大学も主

係を築いて共存共栄を図る方針です。将来的には、「街をキャンパス」として、学生たちが地元の人々と親密に交流しながら、経営やマーケティング、観光福祉などを学べる環境を創りたいと考えています。

さらに来年度から始まる「キャリア創生共通教育」に「ボランティア・地域連携科目群」が設けられ、神戸新聞社に提供いただく「地域とメディア」をはじめ、地域に根ざした実践的な科目が予定されています。また学生の主体的な活動を評価し認証する「ボランティア・サティフィケート」も始動することとなっています。

このような視点に立ち、私たちは自治体連携を積極的に進めています。先ほどの東灘区に加え、西宮市とも包括協定を提携。「KONANプレミア・プロジェクト」の一つ、「海」でつながる「甲南大学と堺市」では堺市役所と連携し、堺市の歴史や文化・産業をテーマとした各種プログラムを開催しています。

幅広い分野の専門家を擁する総合大学だからこそ、学術的な知見や最先端の研究成果を地域貢献に生かすことができるのです。今後は要望の大きい生涯教育にも力を入れる方針です。

共通教育

ミディアムサイズの総合大学だからできる、将来の実務を網羅する幅広い科目を設け、学生のキャリア形成を力強くサポート。

横断型の教育が学部を超えた出会いを創出。「融合力」が生まれる場に。

大学では、経済や法学、文学や工学などそれぞれの領域について体系的な知識を身につけます。しかし、せっかくの専門知識も使いこなす技術がなければ十分に生かすことはできません。全学共通科目は、4年間で積み上げる「知識」をよ

り高次の「知恵」に転換し、「生きる力」に変えるためのもの。学部の特長科目と合わせて学ぶことによって社会で活躍できる能力をしっかりと養います。また、全学共通教育ということばが示すように各学部のカリキュラムを貫く横断型の教育であることも大きな特色の一つです。学生たちが学部を超えて出会い、一人ひとりの力が混ざり合って化学反応を起こすとき、これまでにない新たなものが創出されるに違いありません。このよ

うに全学共通教育は、長坂学長が甲南らしさの象徴として掲げる「融合力」が生まれる磁場の役割も担っているのです。

主体的に学ぶ楽しさを発見し、他者と協調する力を養う

「全学共通基礎演習（ゼミ）」。

学長補佐・社会科学研究科 会計専門職専攻
いよだ たかし
伊豫田 隆俊 教授

今年4月、「全学共通基礎演習（ゼミ）」を開講します。全学部の1年次から希望者を募り、少人数のグループに分かれてプロジェクト型の学習を行うものです。高校時代の受動的な「勉強」から、大学の「学び」へとスムーズに誘導し、主体的に学ぶ楽しさとその先にある目標を自ら発見することが主な目的。そのためにキャンパス全体を教室に見立てたオリエンテーションをはじめ、ワークシopp、ゲームなど幅広い体験型授業を設けました。チームのメンバーと語り合い、ともに考え、ともに解決するプロセスが仲間への信頼や協調性をごく自然に育みます。さらに第一線の新聞記者による双方向のワークや「甲南大学教学アドバイザリー・ボード」の協力のもと各界で活躍する卒業生を招いてのプロジェクト学習も実施予定。どちらもディスカッションを通じて理解を深め、論理的な文章を書くトレーニングを行うなど学びの基礎力トレーニングを養います。さらに、

ゼミでの立ち居ふるまいやマナーの実践を通じて「世界に通用する紳士・淑女たれ」という甲南大学の建学の理念を浸透させることも重視しています。

将来の目標と興味に応じて自由にカスタマイズ可能な「キャリア創生共通科目」。

高校から大学への橋渡しが「全学共通基礎演習（ゼミ）」とするなら、大学から社会への橋渡しの役割を果たすものが「キャリア創生共通科目」です。卒業後、学生たちは必ずしも学部で学んだ専門分野に進むとは限りません。文学部の学生がその人間性と教養を評価され、金融業界に就職するケースなどがその好例です。自らの将来が視野に入った段階で簿記や会計、ITスキルなど実践的かつ応用可能な実務能力を身につければ、どんな分野でも即戦力として活躍できる可能性は確実に高まるでしょう。そのために学生一人ひとりが目標と興味に応じて履修科目を選び、自由にカスタマイズできるカリキュラムを用意しました。ビジネス科目群の中から会計や法律、情報の基礎をバランスよく履修して就職に備えるもよし、税理士公認会計士をめざして本格的に学ぶもよし。「浅く広く」にも、「狭く深く」にも対応できる充実した講義内容です。さらに、ビジネス英語を含む「国際」「ボランティア・地域連携」「スポーツ・健康科学」という3つの科目群も設け、世界的な視野をもちながら社会の一員としてコミュニケーションに貢献できる能力を育成。豊かな人間関係を築き、実り多い人生を歩む一歩がここから始まります。



世界金融の最前線で活躍し、
アメリカの名門ビジネススクールから

栄誉ある賞を贈られた

先駆者。

アメリカの名門ビジネススクール・ピッツバーグ大学経営大学院の「Annual Business Alumni Association Award」は、産業界に多大な影響を与えた次世代のビジネスリーダーに贈られる栄誉ある賞として知られています。2012年3月、その栄冠に輝いた6名の受賞者の中に一人の日本人が含まれていました。甲南大学経営学部卒業生の塚越雅信氏が、その人。グローバルな活躍を可能にした学びと今日までの歩みをご紹介します。

イリノイ大学への留学が、
すべての始まりだった。

グローバル化が進むビジネス界に身を置き、まさにボーダレスな活躍を見せる塚越氏。その語学力や国際的センスは、いかにして育まれたのだろうか。「幼少期を海外で過ごしましたが、そのときはもちろん子どもの英語でした。語彙やニュアンス、言い回しは成長とともに身につけたものです。そんな私のキャリアの第一歩は、甲南大学在学中に交換留学制度第一期生としてイリノイ大学で学んだときに始まりました」。そのことばどおり、すべてはイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校での7週間

Profile

つかごし まさのぶ
塚越 雅信 氏

1963年生まれ。甲南大学経営学部在学中にイリノイ大学に2年間留学。卒業後、ピッツバーグ大学経営大学院に進学し、MBAを取得。ボストン銀行で主に新興資本市場の分野において実績を重ね、数々の役職を歴任。ドイツ州立銀行東京支店新興市場部長を経てインクタンク・ジャパン(株)代表取締役社長。東京大学先端科学技術研究センター客員研究員。さまざまな企業、学術団体、公的プロジェクトの役員として活躍中。ピッツバーグ大学および同大経営大学院日本同窓会会長。

ではなかった。国際教養大学現学長である鈴木典比古先生が当時イリノイ大学で行った国際経営の講義に触発され、「経営というフィールドで国際的な懸け橋になる」という目標が定まったのだ。ビジネススクールへの進学とMBA(Master of Business Administration 経営学修士)の学位取得が視野に入ったのもこの時期だ。

世界金融の最前線で活躍。
成功と重責の狭間で格闘する。

帰国後、甲南大学で学びながらアメリカを代表する名門ビジネススクールピッツバーグ大学経営大学院への入学をめざした準備に着手する。「一刻も早く社会に出て、現実を知りたい」という理由から1年制プログラムを選択して出願。実務経験者が優遇されることの多い難関を見事突破し、再びアメリカへ渡る。1987年、塚越氏24歳のことだ。

ビジネススクールの1年間は、文字どおり勉強漬けだった。夜中まで大学院に残り、宿題やグループワークに取り組み日々。この経験が、多民族国家アメリカでチームを率いて確実に成果を出すという塚越氏のリーダーシップ力を培うことになる。それだけではない。多忙を極める中、有志の学生団体「インターナショナル・



ビジネス・アソシエーション(IBA)を設立したというから、そのエネルギーには驚くばかりだ。教授陣を巻き込んで定期的に関した国際交流イベントは学生たちの人気を呼び、オリジナルメンバーが大学院を去った後も後輩たちに長く引き継がれていた。

MBA取得後、ボストン銀行(現バンク・オブ・アメリカ)に入行した塚越氏は、ここでも瞬く間に頭角を現す。入社4年目にして中南米諸国の累積債務問題を解決するブレイディ構想(当時の米・財務長官ニコラス・ブレイディ氏が提唱)の一翼を担う大役へと抜擢されたのだ。さらに、その実績が認められ、わずか31歳の若さで新興市場投資銀行部ポートフォリオ運用のトップに就任する。しかし、その輝かしいキャリアの背後には、想像を超える重責も抱えていた。「1994年の暮れに起きたメキシコ通貨危機のときです。ペソが暴落したその日から6か月間、毎朝7時半に役員と大株主の前に立つことになりました。射るような視線を一身に浴びながら、市場の動向と対応を説明するのです。この経験を通じてプロフェッショナルのあるべき姿を学びました。それは、決して逃れてはならない責任の重さと厳しさを自覚することです」。このように世界的な金融危機と格闘し、成果を収めた塚越氏は、資本市場部極東地域のトップを経て1998年、ドイツ州立銀行に請われて責任ある地位へ。キャリアの階段をさらに順調に上り続けた。

ベンチャー企業を育てる投資へ。
社会貢献への道へ踏み出す。

転機が訪れたのは2000年、36歳のときだった。志を同じくするアメリカ人ビジ



産業界での活躍やピッツバーグ大学同窓会での活動が評価され、同大経営大学院より栄誉ある賞が贈られた。

ネスパートナーとともに米国インクタンク・ベンチャーズを設立。マサチューセッツ工科大学やハーバード大学を中心に高い技術をもつ大学発ベンチャー企業を育成する投資事業に着手したのだ。翌年には、インクタンク・ジャパン(株)の代表取締役就任し、日本国内での事業も本格的にスタートする。しかし、なぜ国際的な銀行で手に入れた地位を捨ててまで新たな挑戦を決意したのだろうか。「私の経験から得た『本質』を多くの人に伝え、将来性のある事業を育てたいと考えたのです」と静かに語る。そもそも塚越氏は、学園創立者・平生鈞三郎が貫いた社会奉仕の精神に薫陶を受けた一人だという。

平生は保険業界で活躍し、大きな成功を収めた後、深い思索の末に「人生三分論」という考えに到達した。「人生三分論」とは、人生を「人や社会の世話になって勉学に励む時期」「社会に出て全力で働く時期」「蓄積した能力や富を社会に還元し奉仕する時期」の3つの時期に大きく分けるという考え方だ。それを平生は自ら実践し、旧制七年制甲南高等学校を創立するとともに貧しい人々を救済する病院経営、ブラジル移民支援事業などさまざまな奉仕事業に全力で取り組んだ。塚越氏も平生を模するよう

に、社会のために自らの力を尽くせないものかと考え、人生の舵を切った。技術系中小企業に知的財産経営コンサルタントとしてかわる傍ら名古屋大学、東京大学などで教鞭をとる姿には、平生が何より大切にしていた「人を育てる」というスピリットが刻まれているように見える。

甲南大学の『ゆとり』は伸びしろ。
『柔らかい』心で世界に触れよう。

甲南大学で学んだ日々は、しばしば懐かしい思い出とともによみがえると語る。「すばらしい先生方に恵まれていたせいか、学生一人ひとりの心に『ゆとり』と『柔らかさ』がありました。自然に醸し出される『ゆとり』は、甲南大学の長い歴史が育んだかけがえのない品格であり、伝統だと思っています。学生のみならずには、その価値を自覚して自分自身の成長に生かしてほしいですね」。

塚越氏が、イリノイ大学に留学した日から、早くも約30年の月日が流れた。その間、甲南大学の留学プログラムは多様化し、当時とは比較にならないほど多くの学生たちに海外で学ぶチャンスが与えられている。心に『ゆとり』と『柔らかさ』を備えた若き甲南大生たちがグローバルに学んだとき、その先にどんな世界が広がっているのか。先駆者である塚越氏の努力と成功が、確かな道しるべとして行先を照らしてくれるに違いない。



甲南大学、その哲学の系譜。

く二人の哲人が実践した「教育」の足跡をたどるく

文学部人間科学科を中心に甲南大学は、人の生命(いのち)と心を探究する哲学の系譜を脈々と受け継いできました。創立者平生鈆三郎の教育理念の根本である「人格の修養・健康の増進・個性の尊重」と深く共鳴しながら育まれてきた哲学の歩み。その伝統は今、豊かな「教育力」の土壌となって息づいています。

それぞれの視点から研究した二人の「哲人」の存在。

ギリシャ語の「フィロソフィア」に由来し、「sophia(智)をphilien(愛する)」という意味をもつ「哲学」。古くから、人生や世界の根本原理を追究する学問として特別な位置を占めています。甲南大学にも、それぞれの視点から真理を追い求めた哲人がいました。谷口文章先生と港道隆先生というお二人です。

哲学は現実を変えられるか。その問いを研究の原動力に。

「むさぼるように本を読んでいた」と旧友が思い出を語る高校時代の谷口文章先生。そのころ青年の心に芽生えた人生への疑問と哲学への関心は、甲南大学経済学部在学中、より一層深化します。その後、大阪大学大学院文学研究科に進学。アダム・スミス『道徳感情論』をベースに近代市民



谷口 文章 たにぐち ふみお

甲南大学文学部人間科学科教授。1946年生まれ。甲南大学経済学部卒、大阪大学大学院文学研究科修了。哲学、環境学、生命倫理、環境倫理、環境教育学など広範な領域を研究。北京大学、ヴィクトリア大学、マラヤ大学などの客員教授も歴任。『現代哲学の潮流』など著書多数。2013年没。甲南大学名誉教授。

築きました。

そんな谷口先生に転機が訪れたのは、30代前半のことでした。学生一人ひとりの心の問題と向き合ううちに臨床心理学へと研究の領域は拡大。さらに各地の餌付けされたニホンザルの群れに残留農薬が原因とされる奇形ザルが発見されたことを知るや否や、持ち前の行動力でフィールド調査に着手したのです。これらの経験を通じて自然や社会環境など「外なる環境」は人間の「心の環境」と入れ子状の関係にあるという認識を得るに至り、現実の諸問題に対応する「アクションできる哲学」の追究が始まりました。

人の生命と環境を健やかに育む、教育者としての多彩な挑戦。

人間と自然、生命と環境との問題を統合的・総合的に見つめる視点は、何より甲南大学での教育に生かされました。1999年には、甲南大学環境教育野外施設(広野

グラウンド)を開設。自ら率先して汗を流し、学生の無農薬有機農法による農業体験学習に力を注ぎます。さらにゼミの研修旅行では、海外の研究者との豊かなネットワークを生かし、中国・カナダ・タイ・マレーシアの大学を訪問。現地で起こっている環境問題について学ぶとともに、学生間の交流を通じて異文化を理解し尊重する心を育みました。環境教育の第一人者として日本環境教育学会など学術団体の役職を担う傍ら、国土交通省・環境省等との共同研究や国際環境ネットワークの構築などにも精力的に取り組んだ行動する哲学者・谷口文章。その人生を突き動かしたのは、次世代に生命の輝きと持続可能な社会を残したいという使命感だったに違いない。

デリダの「脱構築」を中心に、フランス現代思想に多大な功績。

1984年、気鋭の哲学者として注目されていた港道隆先生は、パリ第一大学博士課程に留学します。このときすでに『メルロ＝ポンティ』(当時東京大学教授であった故廣松渉氏との共著)の著者として知られ、留学生の中でも際立った存在感を示していました。折しもフランスに端を発した「脱構築」の思想が、哲学のみではなく文学、建築、演劇にも大きな影響を与えていた時代。港道先生はその最前線に身を置き、ジャック・デリダ、ミシェル・フーコー、エマニュエル・レヴィナスなど思想界の巨



港道 隆 みなとみち たかし

甲南大学文学部人間科学科教授。1953年生まれ。東京外国語大学大学院修士課程修了。パリ第一大学博士課程修了。フランス現代思想の中でも「脱構築」を中心に研究。『メルロ＝ポンティ』『レヴィナス―法・外な思想』など著書・訳書多数。2015年没。甲南大学名誉教授。

匠の薫陶を受けながら、自らの哲学的思索を深めていったのです。中でもジャック・デリダとは、自宅に招かれるほどの信頼関係を築くに至りました。これらの濃密な体験を礎に、帰国後は「脱構築」の思想研究と著書の翻訳に多大な功績を残すこととなります。

「努力は必ず報われます」真摯な姿勢で学生を導く。

甲南大学に着任して7年目の1995年。この地を襲った阪神・淡路大震災は、港道

先生の研究にさらなる広がりや深みを与える契機となりました。2002年には、開設に尽力した甲南大学人間科学研究所の所長に就任。臨床心理学と人文科学諸分野が連携し、心の危機を探る研究に取り組む環境を整えました。さらに学生たちの教育に力を注いだことも知られています。講義以外の時間に開く「読書会」では、フロイトなどの古典的名著を学生とともに読み、一人ひとりの専門性と語学力を育みました。「受験のために勉強するんじゃない。志を高くもって学ぼう」と常に語りかけた港道先生。その真実を追い求める真摯な姿勢と惜しみなく与えた知識により、教え子たちを進むべき道に導きました。

人間と世界を見つめた精神が、甲南大学の豊かな土壌に。

奇形ザルのフィールド調査に始まりマレーシア先住民族のコスモロジー研究にまで関心を広げ、環境教育の第一人者としてアクティブに行動した谷口先生。フランス現代思想の最先端で思索を深め、翻訳においても多数の業績を残した港道先生。両極端に見える二人の歩みは、真理の追究と人を育てる情熱において不思議なほど一つに重なります。異なる視点から人間と世界のあり方を見つめた二人の哲人たち。その精神は、甲南大学ならではの教育力に結実し、継承されているのです。

クールな風貌からは想像できない温かい人柄と親身な指導。

社会人になってから臨床心理学を学びたくて甲南大学に3年次編入学をしました。港道先生との出会いは、「外国文献基礎演習」の授業のとき。大学院進学について相談すると英語で文献を読む「読書会」に誘ってくださるなど、クールな雰囲気からは想像できないほど親身に指導していただきました。『狼男の言語標本』の翻訳者として名を連ねる機会を与えてくださったことも忘れられません。先生の闘病中、「読書会」を任された私のことを「宮川は、私に相談しなくても一人でできるはずだ」とおっしゃっていたとか。そのことばを奥様から伺ったとき、私の自立を願い、常に見守ってくださる先生の温かいまなざしを感じました。



臨床心理士、甲南大学文学部 非常勤講師
甲南大学人間科学研究科 客員特別研究員

みやがわ きみこ
宮川 貴美子 氏



甲南大学文学部 非常勤講師
大阪大学大学院法学研究科 特任研究員

わたなべ りな
渡辺 理和 氏



そして迎えた夏のビッグイベント、兵庫県立芸術文化センターでのSKO単独演奏会。これを機に引退する上級生も多く、恩返しのような気持ちも込め、過ぎる時間を惜しみながら演奏しました。

夏休みも毎日練習でしたが、やればやるほど素敵なハーモニーができるので、つらくはありませんでした。佐渡先生からよく指導されることは「何を伝えたいかを考えよう」。曲一つひとつにあるテーマや背景を理解して、感情を込めて演奏しようということ。その意味をしっかりと理解できたのは「東日本大震災復興祈念プロジェクト」の演奏会でした。1週間で10公演のハードスケジュールでしたが、聴いてくださった地元のみならずから笑顔で「ありがとう」「来年もよろしくね」と言われるたびにうれしくなり、また演奏を通じて気持ちのいい気分がして感激もひとしおでした。



10曲ほどの課題曲は落ち着いた感じから楽しい調子までさまざまですが、最も好きなのはチャイコフスキーの「弦楽セレナーデ」。ド・レ・ミの音から始まる曲で、それだけで人を感動させることができるのです。



気持ちに余裕が生まれて
どんどん楽しくなっていく。

SKOに入ってからまだ1年未満ですが、演奏技術はすぐレベルアップしたように思います。ことばでは伝えにくいのですが、伸びやかで深みのある、ピオらしい音色が出せるようになりました。

オーケストラ活動を通じて体験できたことは「周りを考えることの大切さ」「みんなと一つになるすばらしさ」です。他の奏者とアイコンタクトし、奏する音色を聴き、それと合うように音の強弱やリズムを調整して弦を弾く。こうして話すと難しそうですが、実は気持ちに余裕が生まれて、演奏がますます楽しくなりました。

将来、音楽家をめざすかどうかはわかりませんが、今はSKOでの演奏を楽しみ、音楽はいつまでも続けていきたいと思っています。

楽譜から情景を読み、自分らしい演奏を!



SKO首席指揮者 **加藤 完二** 先生

京都府生まれ。4歳よりバイオリンを始める。大阪音楽大学器楽科ヴァイオリン専攻卒業。現在、伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団常任指揮者(1990年～)、佐渡裕とスーパーキッズオーケストラの首席指揮者(2004年～)、京都市少年合唱団音楽監督(2010年～)、伊丹市民オペラ実行委員会会長、大阪音楽大学非常勤講師、同志社女子大学非常勤講師、あんさんぶる・ぱっくぼ～主宰を務めるほか、甲南大学文化会交響楽団の指導にもあたる。

【受賞歴】第2回ディヌ・ニクレスク国際指揮者コンクール(ルーマニア)入賞および審査員特別賞、兵庫県新進芸術家奨励賞、伊丹市芸術家協会新人賞。

SKO首席指揮者
加藤 完二 先生からのメッセージ

SKOの活動を通じて私が最も伝えたいこと。それは「感謝する心」です。たとえば地方に遠征した際、会場の設営や運営をしてくれるのは初対面の人ばかり。そんなときこそ礼儀正しく挨拶し、感謝の気持ちを伝えられるようになってほしいですね。演奏については上手な人の真似をするだけでなく、楽譜から情景を自分の感性で読み取って、オリジナリティのある演奏をしてほしいと願っています。

そんな中、阿部くんはSKOに入ってからまだ1年足らずですが、オーケストラの仲間にとっても良い影響を与えていると思います。普段はおだてに乗りやすいお調子者といった印象で、私と目が合うと笑顔で肩をすくめることもしばしば。しかし、いったんスイッチが入った後の集中力には目を見張るものがあります。私は彼が小学生のころから指導しているのですが、中学生になって「SKOに入るぞ」と心に決めた後は、毎日6～7時間もぶっ続けで練習してきました。やると決めたら、とことんがんばる努力家です。

未来へ響け 仲間と紡ぐ 笑顔と音色。

高中TOPICS



2003年より兵庫県立芸術文化センターのソフト先行事業としてスタートした「スーパーキッズ・オーケストラ(SKO)」。トップクラスのジュニア弦楽器奏者*のうち、厳しい選考を通過した者だけで編成されます。芸術監督を務めるのは世界的な指揮者・佐渡裕氏。そんなSKOのオーディションに短い準備期間で合格し、数か月後には甲南学園も共催として名前を連ねる東日本大震災復興祈念プロジェクトの舞台に立つなど、まさにスーパーキッズぶりを発揮しているのが甲南中学校2年生の阿部眞己さんです。SKOへの志望動機から音楽の魅力、演奏活動を通じて学んだことなどを話してもらいました。

*小学生から高校生まで

甲南中学校 2年
あべ なつき
阿部 眞己 さん

幼いころから憧れていた
SKOのオーディションに合格!

初めてSKOと出会ったのは、母親に連れられて訪れた演奏会でした。まだ幼稚園児でしたが、ニコニコして聴いていたそうです。なかでも「リバーダンス」という曲は、奏者がみんなすごく楽しそうに弾いていて、たちまちお気に入り。小学校1年生からピアノを習い始めたのですが、この曲がとても弾きたくて、わざわざピアノの楽譜を探し出して先生に教えてもらったほどでした。ちなみにこの先生のパートナーが、バイオリン奏者でありSKOの首席指揮者でもある加藤完二先生だったことにご縁を感じます。加藤先生の影響を受けた私は、小学校5年生にバイオリンへ転向。中学生になるころにはSKOの演奏会に出たいとの思いが強くなり、相談したところ「ピオならひよっとして……」とのアドバイスをいただき、さっそく練習を始めたのです。ピオはバイオリンを少し大きくしたような楽器で、すぐに馴染めました。

SKOのオーディションがあったのは、中学2年生の4月。審査員には加藤先生、佐渡先生の姿もあって、何を弾いたのかも覚えていないくらい緊張しました。ただ演奏終了後、佐渡先生が笑顔だったことは覚えています。合格通知が届いたのは、約1週間後。周りのみんなも喜んでくれて心の底からうれしくなりました。

感情を込めて
演奏する
大切さを実感。

SKOの練習に参加したのは、それから間もなくのこと。練習参加メンバーは約20人で、そのうち新加入は6人ほど。学校も出身地も違いましたが、すぐに打ち解けました。



メンバーのメッセージ

チームのために、
みんなで決意表明。



経営学部 4年次
てらい みほ
寺井 美穂さん

1年生のときから、リレーチームの同学年は自分1人でした。それでもがんばり抜けたのは、いつも最高の仲間たちが、一緒にバトンをつないでくれたからです。卒業後も実業団アスリートとして競技生活を続けます。



文学部 3年次
たなか あんり
田中 杏梨さん

他校も速い選手をぶつけてくる2走では、どうしても私のタイムが見劣ります。逆にいえば、私のタイムが伸びれば、チームはもっと強くなるはず。最終学年では、全国で勝つことが目標です。



経済学部 1年次
きむら みずほ
木村 瑞穂さん

関西インカレのときは、メンバー入りできるタイムではありませんでした。それが後半から伸びてきて、1年生で大きな大会に出場し成績を残せたことは、今後につながる自信になっています。



経営学部 1年次
ふじい さわこ
藤井 彩和子さん

全日本インカレでいきなり1走を任されたときは、正直、とまどいました。でも、先輩の寺井さんから「がんばって!」と声をかけていただき、思いきり走り、最高の成績を残しました。



経営学部 3年次
ながの まりこ
永野 真莉子さん

全日本インカレでは、最後に抜かれてしまいました。これが私の弱み、後半もピッチが落ちないよう練習しています。来季は有望な新人も入部予定ですから、全日本インカレ優勝をめざします。



走るのは4人だけど、つなぐバトンには 5人分の思いが込められている。

みんなで**絆**をリレーする体育会陸上競技部 女子リレーチーム

関西インカレ2位、全日本インカレ2位、そして実業団選手も参加する日本選手権リレーで3位。しかも関西インカレでは関西学生新記録、日本選手権でも関西学生新記録を更新し、日本学生歴代3位の好タイムを残しました。過去最高の好成績で今シーズンを終えた女子リレーチーム。飛び抜けたエースがいないにもかかわらず、ずば抜けた成績を残せた秘密、それは5人の絆が紡ぎ出した力にあります。

クローズアップ

がんばる学生を
応援!!



2015・09・12
全日本インカレ、今でも
悔しくて涙を抑えられない。

全日本インカレ、この大会は学生アスリートにとって特別な意味をもっています。地区インカレを勝ち抜き、かつ標準記録を突破したものが参加資格を得る学生スポーツの頂点。ここで勝つことが、学生アスリートにとっての最終目標であり、特に4年生は絶対に出場したい大会です。

「その決勝戦のメンバー表を見たとき、思わず、その場で涙が止まらなかった」と4年生の寺井美穂さんは振り返ります。チームリーダーとしてみんなを引っ張ってきた寺井さんは、6月ぐらいから不調が続いていました。この日も予選には出たものの、ミスもあり決勝のメンバーから外れたのです。寺井さんの気持ちは、メンバー全員が痛いほどわかっ

走ってもバトンミスすることはまずありません。その結果、関西インカレは45秒36と好スタートを切りました。

2015・10・24
日本選手権、
必死の追い込みで3位に。

ラグビー・日本代表の五郎丸選手で有名になった、ルーティーンが、女子リレーチームにもあります。それはリーダー寺井さんの決意表明。試合前に「今日は44秒台で優勝する!」と目標をことばにするのです。このひと言がメンバーの心をがっちり結びます。そして、そのレースを走るメンバーと、走らないメンバーの闘志に差はまったくありません。なぜなら、練習ではみんなが同じだけ苦しんできたからです。調整法に違いはあっても、自分に対して手抜きを一切許さない厳しさは、

ています。「絶対に勝つ!」みんなの闘志に火が点きました。寺井さんに代わってスターターに抜擢された1年生の藤井彩和子さんに、高校の先輩でもある田中杏梨さんが「最初から突っ込め」と檄を飛ばします。3走の木村瑞穂さんは、みんなの気持ちに後押しされるように激走し、トップで永野真莉子さんにバトンをつなぎました。そしてデッドヒートの末に2位でゴールしたのです。

個人の走力+チームの絆 Ⅱ 甲南リレーの秘密。

4×100mリレーは、不思議な競技です。たとえば2008年の北京オリンピックでは、日本男子の400mリレーチームが、世界の強豪を相手に銅メダルに輝きました。個人の100m走では、世界にまったく歯がたたない日本チームが勝てた理由は何か。

みんな同じ。その先に「日本一になる」目標を見据えています。

シーズン最終戦となる日本選手権では、復調した寺井さんが1走を任せました。そして、最後の「必死の追い込み(永野さん)」で3位に食い込みました。しかも関西インカレからさらに0秒30もタイムを縮めて、45秒06と今シーズン最高の成績を叩き出したのです。有終の美を飾ったチームは、早くも来シーズンに向けて、新たなバトンをつないでいます。



KONANスポーツ応援プロジェクト

甲南アスリートの活躍を
応援に行こう!

▶ Facebookページでチェック!

<https://www.facebook.com/konan.sports>





アリがかわいくて、面白くてたまらなくて 世界一たくさんの 女王アリを飼っている研究者!?

ことわざに「蓼食う虫も好き好き」とあるように、人は、実にさまざまな対象に興味をもつものです。だから世の中には、多種多様な分野の研究者がいます。とはいえアリ専門となると、かなり少数派。中でも、女王アリによる精子の体内貯蔵メカニズムを探っているのは、おそらく世界でただ一人でしょう。そんなアリのスペシャリスト、理工学部生物学科細胞学研究室の後藤彩子講師にお話を伺いました。

小学校5年生でアリの 行列に魅せられて。

小学生のときに、ふとアリの行列を眺めていると、これが面白くて見飽きない。これがアリに興味をもったキッカケでした。夏休みの自由研究にしようと、行列の観察日記を付けたり、図書館に連れて行ってもらって図鑑などを調べてアリの研究ノートを作ったりしました。調べれば調べるほど、アリはとても不思議ですごい生き物であることがわかったのです。

高校の生物の教科書では、アリの性決定のシステムを知りました。アリにはオスとメスがいるけれど働きアリはすべてメスであること、オスは交尾の

ために一時期にしか生み出されないこと、オスは未受精卵、メスは受精卵から生まれてくることなど、もう謎だらけ。ほかにも細胞のはたらきについても関心をもち、さらにそのころクローン羊のドリーが誕生したこともあって、生物の不思議に感動して、生物学をもっと勉強しようと思ったのです。

大学では、主に進化生態学に興味をもちました。生き物がどのように進化したのかを研究する学問です。たとえば、クジャクのオスはとてもきれいです。目立つと捕食者にねらわれるおそれがあるのに、あのように進化した理由は、メスを引きつけるのに有利だから。アリの進化についてはわからない不思議なことばかり。もっと研究を続けたいと思い、東京大学の大学院に進

みました。

なぜ、女王アリと 働きアリに分かれるのか。

大学院では、女王アリと働きアリに関する疑問が次から次へと浮かんできました。どちらもメスで、もっている遺伝子は同じ。なのに、女王アリは羽があって体が大きく、繁殖をします。一方、働きアリは羽がなく、繁殖しない体の構造になっていて、両者はかたちと機能がまったく違います。この違いは、遺伝子の使われ方の違いからできているのですが、どうしてそのようなことになるのか。女王アリと働きアリを分けるものは、一体何なのか。

アリは別名「羽をなくしたハチ」とも

「それ面白そう!」を 大切にしよう。

小学校でアリに興味をもって以来、これまでずっとアリの研究を続けてきました。東京大学の大学院を出た後は、東南アジアのアリを研究したくてその専門の先生がいらっしゃる愛媛大学大学院で研究を続けて博士号を取得しました。その後は、自然科学研究機構基礎生物学研究所に移って植物の進化と発生を学び、独立行政法人日本学術振興会の公募に通ったおかげでアリの研究に集中できるようになりました。

大学院を出た後も、研究を続けたいと考えました。せっかくなら、世界で誰も研究していないテーマに取り組みうと選んだのが「精子貯蔵」です。女王アリが体内にオスから受け渡された精子を死ぬまでためていることは、ごく一部の研究者の間では以前から知られていました。女王アリの最長寿命は、29年との記録が残っていますが、多くのアリでは女王が10年以上生きて、その間ずっと精子を貯蔵していると言われて

います。どうして女王アリはこんなことができるのか。この謎を解くには、生

態学に加えて分子生物学の知識が必要です。アリの研究者はほとんどが生態学の専門家で、あまり分子生物学を使った研究がされていませんでした。私はある程度の知識をもっていたので、これは私にしかできない研究だと思ったのです。

女王アリが最長29年も 精子を貯蔵する メカニズムとは。

女王アリは、精子をためておく袋「受精嚢(じゅせいのう)」をもっています。女王はどうやってその袋の中で精子を生かしているのか。もちろん、私もまだ何もわかっていません。そこで受精嚢の秘密を探るために、その袋の中で精子がどうやって生きているのかを調べ

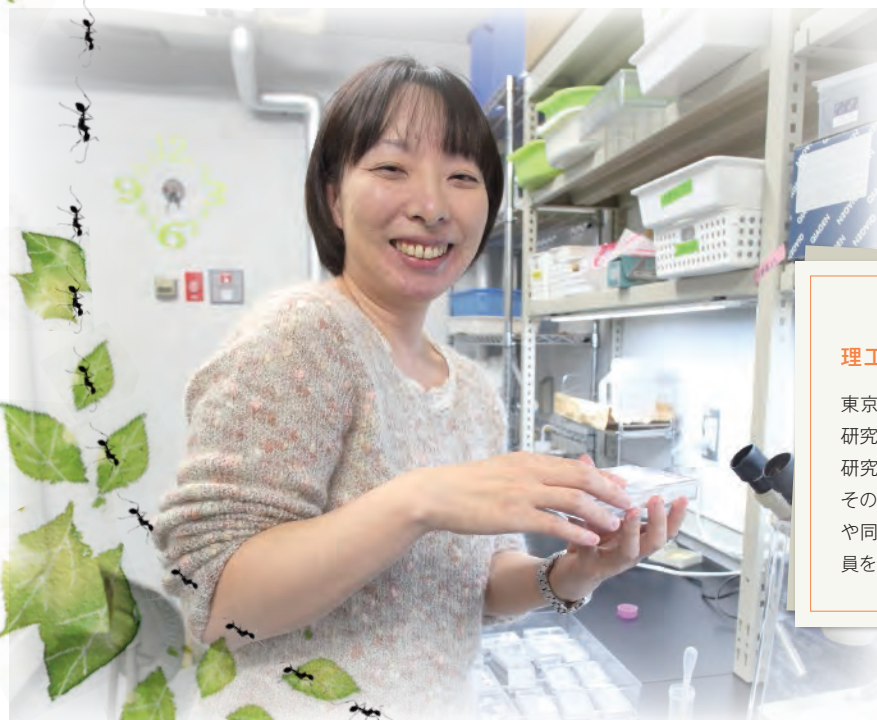
ました。

もう、びっくりしました。なんと中の精子は動いていなかったのです。しかし考えてみれば、これはとても合理的です。長生きするためには、じっと休眠している方がエネルギーを消耗しないからです。ただ、精子が休眠状態に入るメカニズムは不明です。今は、精子の動きを止める仕組みを解明するために、受精嚢で発現している遺伝子解析に取り組んでいます。この研究をすすめるためには、女王ア리를たくさん集めなければなりません。そのために、コンビニの自販機の明かりに吸い寄せられる女王アリを捕りに行きます。夜中にうろうろしていると「お財布でも落としたのですか」と不思議そうに声をかけられることもあります(笑)。

これまでに受精嚢だけで発現している遺伝子を12個見つけました。この遺伝子から作られるタンパク質の中には、人や家畜の精子保存に活用できる夢の物質が見つかるかもしれません。



いわれていて、ハチの仲間です。ハチにも女王バチと働きバチがいます。ミツバチの世界では、幼虫のときにローヤルゼリーを与えられたものだけが、女王バチとなります。では、アリはどうなのでしょう。女王アリと働きアリを分けるのは、実は幼虫のころの温度や



ごとう あやこ
理工学部生物学科 後藤 彩子 講師

東京都立大学理学部生物学科卒業後、東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻修士課程修了、愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了、博士号(農学)取得。その後、自然科学研究機構基礎生物学研究所・特別協力研究員や同生理学研究所・専門研究職員、日本学術振興会・特別研究員を経て現在に至る。

不景氣打開策をめぐる

平生釵三郎と
小林一三

甲南大学名誉教授

藤本 建夫
ふじもと たてお平生釵三郎
日記刊行
記念シリーズ

社会問題化する

「高等遊民」

小林一三が生まれたのは明治6（1873）年で、平生釵三郎より7歳年下である。二人とも大阪を代表する実業家で、大阪ロータリークラブの会員でもあった。二人は機会あるごとに日本の経済経営、政治その他について意見を交換していたようである。

第一次大戦後の日本経済は不景氣に加えて関東大震災にも見舞われ、その後も回復の兆しは見られず、失業は

相変わらず深刻であった。この重苦しい空気に押し潰されそうになっていたのは高学歴者として例外ではなく、彼ら

「高等遊民」は左翼思想の浸透とともに大きな社会問題となっていたのである。大正14（1925）年10月の内務省

社会局の報告によれば、3月に卒業して8月までに就職できずにいるものは、大卒4862人中1987人で約4割、高等専門学校卒6667人中3300人で約5割。高い学資を支払い、入試という幾つもの狭き門をくぐり抜けてきた彼らを待っていたのは寒風が吹き荒ぶ現実社会であった。七年

制の甲南高校を設立して日も浅い平生にとってこれは大問題であった。

実力本位の社員採用法

昭和2（1927）年3月、平生は「実力本位の社員採用法につきて」と題するパンフレットを出す。この中で教育や就職について、理想肌の平生と現実を重視する小林が語る見解にはそれぞれ今もって新鮮さを失わないものがある。

「平生の「徒弟制度のすすめ」

高学歴者はなぜ就職が難しいのか。学生を社会に送り出す側から見ると、日本の誤った教育制度とそれを前提とする官庁や企業の採用方法に原因がある。採用にあたって学校のランクや成績が第一の基準で、それが彼の「正札」となってその後の地位や報酬をも決定している。だから、親も子も不景気で就職難であるにもかかわらず帝大を目指す。

この日本の教育・就活制度を平生は批判する。「人間は十人十色」、能力も健康も性格も生い立ちも品性も異なっている。たとえ同じ教育を受けても「同一の人間となって卒業するものでない」。にもかかわらず、これに同一の「正札」をつけて世に出そうとする学校当局も間違いないなら、これを信じて採用する官庁や会社はいっそう誤っている。

近年アメリカ流の「能力増進」「科学的経営法」がもて囃（はや）されているが、「正札」主義で「実力本位」とは程遠い日本

の社員採用法はむしろ「反アメリカ式」である。この悪習慣から自由になるには、英米でのapprentice system（徒弟制度）を取り入れるほかはない。

平生がここで考える徒弟制度とは、中学校もしくはそれ以上の学校の卒業生を同等資格のものとしてある期間徒弟として採用し、宿泊費と少しばかりの小遣いを支給して業務を實習させ、この間に本人の知能、健康、性格、品性などを考查し、そのうえで「其実力に応じて位地も仕事も報酬も確定」というもので、この方式で採用すれば「大なる見込み違いもない」はずである。

「小林の実際論」

阪急グループを束ねる小林は、同じパンフレットで、確かに精神論・理想論では平生案に同感だが、採用する側としては実行可能だとは思わないと私見を述べる。小企業はともかく、大企業では短期間採用の徒弟の知能とか性格や健康などまで正確に考查することはできない。たまたま上司になる人物によってまちまちだし、割り振られた部署が不向きであるかもしれない。とすれば、長年月にわたり、しかも多くの人々によって評価された「学校の資格や学業の成績」を参考にした考查のほうが「却（かえ）って公平」ではないか。

人間は「一生或る意味の徒弟制度のもとで採用され、また「常に採用されるべきである」。最初はこの制度を採用しても、その後は出身学校などを基準にした従来通りの「総花主義」であれば何も

ならない。むしろ採用時は「正札」でも、その後は「常に厳格に拔擢主義」を適用すれば、年とともに自然に目的は達せられる。

こう論じたうえで、小林は平生案との「折衷案」を提案する。今は不景氣で「高等遊民」を自由に選べる時代だから、採用するにあたって工科と法（経済、政治を含む）科による報酬の区別、また学校のランク付けも廃止し、単に就学年限の相違のみを考慮するに止め、採用後は「拔擢主義」を適用し、適材適所に配置することにすれば、「真の実力」によって地位も仕事も報酬も与えられ、これこそ「徒弟制度の真髓」を発揮できるのではないか。

どこに不景氣打開策はあるのか

世界大恐慌のさなか、昭和6（1931）年9月13日、平生と小林は上り夜行列車に乗り合す。平生は移民のための政府機関海外移住組合連合会会頭・理事長の要職にあり、小林は東京電燈の副社長でもあった。話題は自然と大恐慌の原因とその対策になった。小林が平生に、「この深刻なる不景氣は何時回復」するか、と水を向けると、平生はこう彼の持論を語った。

「平生の世界大不況克服論」

この不景氣は経済大国アメリカに発する世界的なもので、日本もその「余波」を受けている。したがって日本が



小磯良平作「逸翁肖像」(小林一三肖像画)
公益財団法人阪急文化財団 逸翁美術館蔵

「如何なる方法を施すも、カンフルや食塩の注射以上に利得はない。アメリカをはじめとしてどの国もそれに気付かず、「自己の利益のみに汲々として他人を犠牲にして自己のみを富強」ならしめる策ばかり考え、互いに関税を高めて合っている。こうして「自給自足主義を以て相争」っている以上、世界交易はますます萎縮し、「到底景氣回復は望むべくもない」。

資源小国の日本は決して関税戦争などに巻き込まれてはならないのに、対抗的保護関税を設定しようとしている。しかし国民にとって今考えられ得る最も犠牲が少ない実際の方策は、原料品や食料品は「低廉なる外国品」を使用し、加工品は国産で間に合わせ、高価品や贅沢品の輸入は禁止することなどである。

「小林の「相互組織主義」

平生はこのようにあるべき国家の政策論から大局的に考え議論しているが、小林は彼の「実際論」から何が実行

可能かを問題にする。小林は阪急に「相互組織主義」を採用する計画であることを語る。すなわち、大株主から阪急株を買取り、沿線住民に売却し、50株以上の株主には無賃乗車定期券を交付し、沿線各地には阪急直営で日用品、特に食料品を生産販売して住民の利便性を高め、同じ発想のもとで百貨店の規模も大きくする。こうして沿線の株主は、配当は5%であっても、さまざまな便益を通して配当金以上のものを得ることになる。こうなれば実質的に「会社は沿道住民の所有となりて沿道住民は互いに会社の繁昌を希望し」、この相互システムにより「会社の事業も永久に健全なる発展」をなし、「自他に共に便宜を得る」。この小林のプランに対し、平生は、「尤も健全にして、平和なる社会を現出」するのは間違いないと称賛する。

「小林の世界不況打開案」

実は小林も平生の大局的発想を共有していたことは興味深い。彼は東京朝

『平生釵三郎日記』
第一巻～第十二巻を刊行中です。

『平生釵三郎日記』第一巻～第十二巻を刊行しました。6月には、第十三巻を刊行予定です。定価は各巻20,000円(税抜)ですが、甲南学園関係者の方(卒業生、在学生、ご父母、教職員等)は、10,000円(税抜)でご購入いただけます。

ご注文・ご購入に関するお問い合わせ
甲南大学生協書籍部
Tel.078-441-7901 Fax.078-441-7915

日新聞発行の「世界経済の苦悩を打診す」に一文を寄せているが、そこに次の下りがある。世界不況の打開策は、アメリカがまず第一に「関税を撤廃し、自由通商の旗印を明らかに」することである。そのためには、「わが尊敬する平生釵三郎君の名論に従えば、『…米国に対する債務関係者の国際会議を提唱し、米国に対する債務の元利は各国産業の生産物を以て弁済し、以て米国をして自由通商の大義を実行せしむるにあり』といふのである」。

夜行での会話からほどなくして脱稿したのか、この一文には1931年9月19日の日付けがある。



アサヒビールOB甲南会

旧制甲南高校から脈々と続く絆を 未来へ発展的につなぐ懸け橋に。

会の発足前夜の2014年秋、アサヒビール株式会社内の甲南OBの一部社員から、甲南会結成の話が持ち上がり、早速、有志数名が集結したのがアサヒビールOB甲南会の発端です。

実は、甲南学園創立者平生鈺三郎と、アサヒビール初代社長山本爲三郎翁との間には深い交流があり、平生の大阪ロータリークラブ入会の橋渡しをしたのは、山本翁ともいわれています。それほど縁であれば、アサヒビールOB甲南会の発足も当然といえます。

最年長者である郡司進氏からいただいた「小さく生んで大きく育てよう」という言葉のとおり、甲南会としての活動はこれからとなりますが、「甲南とアサヒビールをつなぐ役割も果たしたい」とおっしゃる初代会長に就かれた岩井史郎氏のお話は、甲友の強い絆をあらためて感じさせました。

アサヒビールOB甲南会会長からのメッセージ

**甲南とアサヒビール。
お世話になった双方に役立つ
組織として発展をめざします。**



アサヒビール
OB甲南会会長
いわい しろ
岩井 史郎 氏

(1957年甲南大学経済学部卒業)
1947年甲南高等学校尋常科入学。1957年朝日麦酒(株)入社。西宮工場物流部長、アサヒビール(株)理事、アサヒカーゴサービス名古屋(株)社長、アサヒビール大山崎山荘美術館事務長を経て、2000年アサヒビール(株)退社。現在に至る。

暗中模索ながら、意気揚々のスタートを切った本会。2015年秋の第2回総会において会長職を仰せつかりました。平生鈺三郎先生からの長きにわたるつながりを大切に、OBの親睦だけにとどまらず、アサヒビールと甲南学園の若い世代とをつなぐ役割も担いたいと考えています。



甲南大学継星会

教職に携わるやりがいを伝え継ぎ 数多くの教員合格実績を支える。

回を重ねるほど盛況に
卒業生教職員の集い。

2015年12月、会場である甲南大学グローバルゾーン”Porte”は、100名近い参加者を集め、熱気であふれんばかりの様子。継星会の第6回総会が開催されていたのです。

甲南大学卒業生である教職員が集まる組織「継星会」が結成されたのは、2010年。教職教育センターの教職指導員である北野隆司先生がご尽力されて、教職に就く卒業生たちと母校甲南大学が連携、融合することで、お互いに良い成果を得られないかとの考えで設立されました。

卒業生教職員同士の親睦をはじめ、会の目的はさまざまですが、北野先生は「継星会によって、教職を

めざす現役甲南大生を元気づけた」とその思いを語られました。それは徐々に浸透しており、第6回総会への現役学生の参加者は約20名もあり、めざす職業の先輩である卒業生と活発に交流する姿が見られました。

**実は教員に向いている
甲南大生。**

「教員に必要な素養の一つは多様性の理解。社会的バランスがよい甲南の学生は、教員に向いているのです」と話す北野先生。そういえば納得できる部分はたくさんあり、ガツガツと他者と競い合うことを好まない優しい甲南大生の気風は、教職に合っているといえます。また、継星会の支援活動などにより、近年、教員の輩出数は増加しており、阪神

など、わかりやすい成果を積み重ねようということ。これが推進されると、卒業生が活躍する教育現場と甲南大学の結びつきは、ますます強固に。新しいカタチの甲友の絆の未来が楽しみです。

甲南学園創立100周年
カウントダウン連載

甲友の“絆”を訪ねて。

活動の輪を広げる同窓生たちⅡ

歩み、
未来へ。

甲南学園は、2019年に
創立100周年を
迎えます。

KONAN marks
the 100th anniversary
in 2019.

設立から5年を経て、ますます活動の幅を広げる甲南大学継星会。甲南大学を卒業し教職に就く同窓組織が構想する教職養成への思いをお伝えします。

また、企業名を冠に据える企業内甲南会も、おかげさまで年々増加しています。今回は、アサヒビール株式会社を勤めあげたOBたちによる結成して間もない甲南会のこぼれ話を紹介します。



甲南大学継星会会長
きたの たかし
北野 隆司 氏
(1972年理学部応用数学科卒業)

民間企業を経て、豊中市の市立中学校教員に。豊中市立第十五中学校校長を退職後、甲南大学の教職教育センターの教職指導員・非常勤講師に着任、現在に至る。

甲南大学継星会会長からのメッセージ

**「教職に強い甲南」。そのように称される日は
そう遠くないと確信しています。**

おかげさまで継星会の活動は、年を重ねるごとに盛んになっています。15名でスタートした会が5年の間に、60名を数える組織になりました。

会を通して卒業生である教職者同士の親睦を深めるとともに、その絆によって、教職をめざす現役甲南大生のプラスになりたいという私たちの思いへの理解が広がっているように感じています。

今後は、継星会と教職教育センターとの連携をさらに強固なものにし、教員採用試験合格へのサポートをはじめ採用後もキャリアアップし、やりがいをもって教員を続けていけるような支援制度の導入なども視野に、活動の幅を広げていきたいと考えています。

学園創立100周年記念事業募金を開始しました

甲南学園は昨年より「学園創立100周年記念事業募金」を開始いたしました。昨年末募金趣意書と払込用紙をお送りしたところ、多くの方々からご協力のお申し出をいただき、誠にありがとうございました。今回の甲南Todayには、募金の払込用紙を同封させていただきました。何卒100周年募金に、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。既にご寄付いただいた皆様にも同封させていただきますが、ご容赦くださいますようお願い申し上げます。



募金概要	▶募金目標額 20億円 ▶事業規模 100億円 ▶募集期間 2015年10月1日～2020年9月30日(5年間)		
お申込みについて	募金額	個人: 1口 2万円 できるだけ複数口をお願いたく存じます。分割払いも可能です。1口または1口未満もありがたくお受けします。 法人/団体: 1口の金額は特に定めておりません。 法人・団体用の申込書をお送りしますので、お手数ですが学園振興募金室までお問い合わせください。	
インターネット募金について	クレジットカード・ネットバンキング (pay-easy)・コンビニ支払からお選びいただくことができます。		
	STEP 1 甲南大学トップページの バナーをクリック	STEP 2 インターネットでお申込み このボタンをクリック	STEP 3 画面指示に従って手続きを お進めください
詳しくはこちらのアドレスより、ホームページをご覧ください。 www.konan-u.ac.jp/100th_anniversary/			
お問い合わせ 甲南学園 学園振興募金室	〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1 Tel:078-435-2323(直通) Fax:078-435-2546 E-mail:bokin@adm.konan-u.ac.jp		

